

あけまして おめでとう ございます

日頃のご厚情に感謝申し上げますとともに 本年も引き続きよろしく願いをいたします

旧年中のこととなりますが、京都清水寺にて毎年恒例で発表されるその年の世相を象徴する漢字は「災」でありました。自然災害に大きく揺らいだ年であった一方、また様々な若い命が傷つき奪われたことに悲しみを何度も覚えた年でもありました。未だ解決をしないばかりか更にむごい結果をもたらした隣国との関係、また更に世界に目を転じれば戦禍未だ収まらずの地域や、国論が真二つに割れて揺らいでいる国々もあり、長期にわたり先の見えぬ経済状態と相まって、文字通り灰色の印象の一年でありました。

私事ながら私たち夫婦は今年春、ともに勤務先の異動の年を迎えております。残りの3ヶ月を現在の地で精一杯働き、迎える新年度にあっては気分を新たに、ともに人生最後の勤務先となるであろう地でがんばりたいと考えております。

冒頭の漢字の発表時に、その文字を書にしたための清水寺の森貫主は「来年は皆の心が一つになって、なごむ心で『和』という字を書かせてもらいたい」と述べられたと伝え聞きますが、私たちも貫首が『和』という字を今年末には書けるように、微力を尽くしていきたいと考えております。

さて今年の年賀状は、郵政公社製のレイアウトを参考(まねとも言う)にした形にしてみました。酉年にちなんで、宇治平等院鳳凰堂の屋根の上にある鳳凰の写真です。昨年秋京都奈良に紅葉狩りに行った際に撮りました。鳳凰を英訳すると Chinese phoenix なのだそうです。災いを福に転じられるように、不死鳥のように再生を目指す一年となりそうです。

末筆ながら、皆様のご多幸をお祈りしております。

2005年1月1日

